



g愛隣幼稚園.....

園だより

.....16. 4月号

「いいね！」をいっぱい

満開の桜から花吹雪、桜の絨毯へ、待ちに待った時は一瞬の夢のように過ぎていきました。入園式の庭では、この日のためにと神様がとっておいてくださった桜が、新入園の仲間たちを迎えてくれました。愛隣の入園式には在園の子どもたちも出席します。1年前、同じように入園式を迎えた子どもたちが、今日はお迎えをする側になります。「はやいね～もう1年、大きくなりましたね～」。「ほんとに！」お家の人達との挨拶でした。桜の花ではありませんが、今日始まった1年は本当に夢のように瞬く間に過ぎていって、気が付くと子どもたちは目を見張るほど大きく成長しています。「そうかなあ・・・。そんなに大きくなっていないよな。」日々の中ではあまり気付かない事かもしれませんが、1年前を思い出したら、どの子も大きくなっています。毎日、毎日泣いて過ごした子が、今日はもう背筋も伸びて、ちょっとはにかんだ立派なばら組です。お家の人と離れられなかった子が、あっさり保育室に消えていきます。オムツがパンツに。なんだか楽しくてやたらとはしゃいでいた子が、訳知り顔の落ち着きっぷりです。“泣いて主張！”から“言葉で主張！”・・・。そうかしらと思って数え始めたらきっとたくさんの成長を数えることができるはず。それはカンガルー組の子どもたちも同じことです。子どもたちを見ながら思わず「いいね！」と言いたくなってしまいます。「いいね！」といえば、愛隣幼稚園のホームページを新しくしてからそろそろ1年になります。facebookも始めてホームページと繋がるようにしました。そのおかげで、たくさんの人たちに愛隣幼稚園のこと、子どもたちの今日をお知らせすることができるようになりました。するとこの「いいね！」というものを押してもらえるようになったのです。これがなかなかいいのです。若い人たちがこの「いいね！」をいっぱい押してほしい、ソーシャルネットワークに様々な投稿をしているのは知っていました。ですが、どうしてそんなことが楽しいのか正直なところピンとこなかったのです。ところが＜愛隣幼稚園＞に「いいね！」をもらうようになってその気持ちが少しわかるようになりました。ひとつには、単純に「いいね！」って言うてもらえることが嬉しいのです。ふたつめに、「いいね！」って言うてもらおうと応援してくれる人がいることを感じます。みつめに、「愛隣幼稚園はいいね！」と言うてもらえる幼稚園であり続けるために、これからも頑張るぞ！と前向きな気持ちになります。そうこれは『自己肯定感』というものです。facebookの「いいね！」はそれを受ける側にとっても分かりやすく、ストレートに「あなたはいい！」というメッセージを届けてくれるのです。なるほど、と思いました。誰もが「自分はいい！」と思いたいのです。そう思えることでよく生きることができるのです。そして「自分はいい！」と思えるようになるためには、誰かの「いいね！」が必要なのです。

子どもたちが大きくなろうとする時、なくてはならないものがこの『自己肯定感』です。春、一つ小さくなった子どもたちの生活には嬉しいこと、楽しいことがいっぱい。しかし、そこには同じくらいたくさんのチャレンジもあります。特にたんぽぽ組は大変です。小さい山、大きい山を自分で越えていかなければなりません。その時に必要なのが「自分はいい！」と思える気持ちです。さてそこで私たちがすることは、「いいね！」をたくさん、ストレートに子どもに伝えることです。すると小さな挑戦者たちは嬉しくなります。応援してくれる人がいると安心します。不安が自信に変わっていきます。自分を好きになります。自分の足で山を越えていく力が湧いてきます。更に、子どもたちは仲間たちにも「いいね！」と言える人たちに成長していきます。来年、桜の花が咲く頃、子どもたちの成長を共に数えたいと思います。「いいね！」がいっぱいの1年でありますように。